

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 寺尾 麻衣
所属 (School) 生命環境科学研究科
学年 (Grade) M1

留学先 (Name of overseas institution)
タイ王国 シーナカリンウィロート大学
留学期間 (study abroad period)
1 か月間

記入日 (Date) 平成 29 年 7 月 20 日

留学レポート Study Abroad Report

私は、2017年4月の1か月間、タイ王国のシーナカリンウィロート大学に短期留学する機会をいただきました。今回の留学について、ご報告させていただきます。

留学の経緯

私が所属する研究室には、タイ王国のシーナカリンウィロート大学の交換留学生が在籍しています。この度の本研究室からの交換留学生として、私が立候補し、留学させていただく次第となりました。留学先での研究テーマは、私が取り組んでいたものとは異なっていましたが、外国という未知の環境で、専門外の研究に取り組むというまたとない経験に魅力を感じ、今回の留学を志望しました。

留学先の研究

留学先の研究室では「タイ北部の温泉を由来とする好熱性菌の中から、マンノシダーゼ活性を有する菌を探索する」というテーマで研究を行いました。留学前の私の研究テーマは、「ペクチン由来オリゴ糖の抗炎症作用」でした。同じく糖質に関するという点では共通していますが、実験方法や求められる実験スキル等、異なる点が多々ありました。

今回の研究テーマは、「菌のスクリーニング」ということもあり、短期間で多くのサンプルについて、検討する必要がありました。そのため、日本での研究以上に実験量とともに、効率性が重視されました。300種の菌について検討することを目標としたため、綿密なスケジュールを立てて実験に臨みました。

主な実験の流れとしては、

菌体培養 → 菌体から酵素を抽出後、酵素活性を測定 → 培養時間や菌体の種類ごとに結果の整理を行っていました。菌体培養に要する日数も検討材料のひとつであったため、結果として、膨大なサンプル数を扱うこととなりました。指導してくださった現地の学生の皆さんのおかげもあり、3週間目には、目的の活性を有する可能性のある菌を数種類、特定することができました。今回の実験では、これらの菌が *Bacillus* 属に分類されるというところまで特定できましたが、酵素における詳細な機能解析には至りませんでした。しかし、これらの菌体が目的の酵素を産生する条件や、その酵素活性を測定する方法を確立することができたことで、留学先の研究室に貢献できたと考えています。

留学先での生活

タイでは、現地の学生と衣食住を共にしていました。食事ひとつにしても、日本とは文化が異なるために、最初は戸惑うことも多くありました。しかし、旧知の仲のように接してくれた学生の皆さんのおかげで、研究室にもタイ独特の生活スタイルにも、すぐに溶け込むことができました。タイの人々は、見知らぬ人にも笑顔を絶やさない方が多いです。大学以外でも、屋台や寮などで、現地の方と気持ちよくコミュニケーションを取ることができました。

留学で得た経験

今回の留学では、未知の環境で未経験の分野を学ぶという貴重な経験をさせていただきました。実験スキルも学べましたが、新たな環境で、一から学ぶことの大変さややりがいを感じることができました。

また、コミュニケーションツールとしての、英語の重要性について身をもって知りました。異なる母国語を持つ研究室のメンバーの間で、英語は必須でした。意思疎通のツールとして英語を使う際に重要な点は、「自分の意見を持つこと」「その意見を伝える努力を惜しまないこと」であると考えました。

この留学で得た経験は、日本の研究室でも、修了後の進路でも必ず生かされると感じています。

今回の短期留学に参加させていただくにあたって、指導教員の教授や留学先の研究室の先生には大変お世話になりました。さらに、つばさ基金があつてこそ、この貴重な経験をさせていただくことができました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

留学を考えておられる皆さん、大学生、大学院生のこの時期に、外国の研究室で研究に邁進できる経験は、社会人となつてからでは得ることができません。ぜひ、一度、日本を飛び出してそれぞれの学びを得てください。



帰国の際、早朝の便にも関わらず、見送りに駆けつけてくれた研究室の皆さんとの思い出の一枚。